

小学校の体育館から始める地域活性 ～3R とともに～

地域の活性化、という話題をよく耳にする。現在、地域の活性化を図るために、様々な取り組みが行われている。私は、地域活性化を図りつつ、日本の抱えている問題の解決につながらないだろうかと考えた。そこで注目したのがごみ問題である。

日本のゴミ焼却場数は世界一である。焼却場がこれだけあるから、ごみがきちんと処理されているのだと思う。しかし、多くのごみを出し、燃やしている、と言い換えることができる。このことによって、大量のダイオキシンが発生している。



ごみ問題の対策として 3R (Reduce、Reuse、Recycle) がある。Reduce は、使用済みになったものが、ごみとして廃棄されることが少なくなるように、ものを製造・加工・販売すること。Reuse は、使用済みになっても、その中でもう一度使えるものはごみとして廃棄しないで再使用すること。Recycle は、再使用ができずにまたは再使用された後に廃棄されたものでも、再生資源として再生利用すること。この 3R を行うことによって、焼却量を減らす取り組みが行われている。個人個人や企業ごとに 3R を行っていかなければいけないのはもちろんではあるが (個人→ごみになるものは買わない。企業→リサイクルできるものを使う。など)、地域の住民と協力して行うことで、地域の活性化を図ることが出来ないだろうかと考え、以下の提案をする。

小学校の体育館での

1. ごみ問題に関する講演会
2. フリーマーケットの開催
3. 使用済みのものの加工イベント

まず、なぜ小学校の体育館を選んだのかということであるが、例えば、上記のことをある公民館等で行うとなると、年齢層に偏りが出るのではないかと考えた。地域活性において、同じ年齢層でのつながりも大事ではあると考えるが、それ以上に幅広い年齢層でのつながりが大事だと考える。小学校の体育館で行うことで、その学校の生徒や保護者、卒業生、近隣に住む高齢者の参加が期待できると考える。

1. ごみ問題に精通した講師による講演会を開催する。小学校の授業の一環として取り入れ、保護者や近隣住民の参加も促したうえで行う。上記のように、日本は焼却設備が整っており、道端にごみが大量に不法投棄されていることはあまりなく、たいした問題にはなっていないという認識の人が多いのではないかと考える。講演会を行うことで、学校の生徒にごみの分別など、学校でもできることがあることを知ってもらうだけでなく、保護者や近隣住民にも、ごみ問題の現状を知ってもらう。それを踏まえた上で2、3を行う。
2. 定期的にフリーマーケットを開催する。そのフリーマーケットは誰が出店してもよく、購入者も誰でもよいものとして行う。例えば、生徒が保護者と一緒になって売ること、1時間で100ポイント溜まり、1ポイント1円としてフリーマーケットで使うことが出来るといったシステムを作ることで、小学生も積極的に参加するのではないかと考える。
3. 学校で使わなくなったものや、フリーマーケットで売れ残ってしまったものなどを集め、それらを加工して、新しくものを作るイベントを行う。その地域でのものづくりに精通している高齢者の方を講師として招き、布であったり木であったりと様々なジャンルに別れて、新しくものを作る。

こういった活動を行うことで、幅広い年齢層での交流が増え、地域の活性化につながる。また、フリーマーケットやイベントにより、義務的に3Rを行うのではなく、楽しく3Rを行うことが出来る。この活動がある小学校が行うことで、近くの小学校もまねをしたり、メディアに取り上げられたりすることで、各地に広がっていくのではないかと考える。

地域住民のつながりを強めつつ、3Rを行う。それによって、まちが活性化する。こんなまちは素敵ではないだろうか。

以上